

各 位

平成14年3月7日

株式会社 神戸製鋼所
(コード番号) 5406

平成14年3月期 決算見通しについて

当社の第149期(平成14年3月期)の決算につきまして、今般その見通しを得ましたのでお知らせいたします。

(1) 連結決算見通し

当期のわが国経済は、IT関連需要の不振などによる世界同時不況の影響から輸出が落ち込んだことに加え、国内でも民間設備投資の低迷、公共投資の減少や個人消費の伸び悩みに加えてデフレ圧力が強まるなど、事業環境は上半期に続き極めて厳しい状況で推移しております。

このような状況の下、当社及びグループ各社は、経営体質の改善・強化に向けて「連結中期経営計画」に掲げた諸施策を推し進め、収益の確保に最大限の努力を払ってまいりました。

当期の売上高は、全体で12,000億円程度と前回見通し並みとなる見込みであります。

一方、損益については、鉄鋼関連事業で鋼材市況改善のための減産を強化したことに加え、アルミ・銅関連事業をはじめとするその他の事業においても、IT関連需要低迷の影響などを受けて厳しい状況で推移したことから、経常損益は前回見通しに比べて90億円減益の150億円程度となる見通しであります。

また、株式市況の低迷に伴い、上場株式を中心に多額の評価損を特別損失に計上せざるを得ない状況にあることなどから、税引後の当期損益は前回見通しに比べて190億円減益の290億円程度となる見通しであります。

(億円)

	売上高	経常損益	当期損益
今回見通し	12,000	150	290
前回見通し(昨年11月21日)	12,000	60	100
(参考)前期実績	13,730	500	65

(2) 単独決算見通し

当期の売上高は、アルミ・銅部門及び機械部門が減収となることから、全体では前回見通しに比べて 100 億円減収の 8,000 億円程度となる見通しであります。

経常損益については、鉄鋼関連事業で減産の強化や円安影響により減益となったことに加え、アルミ・銅部門及び機械部門においても減益となったことから、前回見通しに比べて 40 億円減の 40 億円程度となる見通しであります。

また、株式市況の低迷に伴い、上場株式を中心に多額の評価損を特別損失に計上せざるを得ない状況にあることなどから、税引後の当期損益は前回見通しに比べて 210 億円減益の 210 億円程度となる見通しであります。

(億円)

	売 上 高	経 常 損 益	当 期 損 益
今 回 見 通 し	8,000	40	210
前回見通し(昨年 11 月 21 日)	8,100	0	0
(参考) 前 期 実 績	8,168	146	605

〔 配当について 〕

当期の配当につきましては、平成 1 4 年 3 月末においても引続き欠損金を計上する見通しであることから、誠に申し訳なく存じますが、商法の規定により実施することができません。事情ご賢察のうえ、何とぞご理解を賜りますようお願い申し上げます。

以 上